



ヴァイニツヒ社・ホマッグ社 共同開催 ラッピング・ソリューション・フェア開く

■次回は12月7日(木)
8日(金)
9日(土)
の三日間

テーマ「少量多品種生産とコスト削減を図れば、プロファイル・ラッピングの未来が見えてくる」

ミカエル・ヴァイニツヒ・ジャパン(株)(神戸市 アルミン・ラッツヴィル社長)とホマッグ・ジャパン(株)(東大阪市・安井実社長)共同開催による「ラッピング・ソリューション・フェア」を11月9、10、11日の三日間、神戸市摩耶埠頭のヴァイニツヒ社ショールームで開催した。

今回のソリューションフェアは「少量多品種生産とコスト削減を図れば、プロファイル・ラッピングの未来が見えてくる」をテーマに、ヴァイニツヒからモルダー・パワーマット1000が、ホマッグからはグループのフリッツ社(FRIZ)からプロファイル・ラッピングマシンOPTIMT PUM120タイプがそれぞれデモンストレーションを行なった。協賛にシートメーカー及び刃物メーカーの兼房、ライツ、ロイコ各社が協力した。



フェアについて挨拶するヴァイニツヒのアルミン・ラッツヴィル社長



モルダーのセット替えを手際よく行なう担当者



パワーマットの操作性を説明するヴァイニツヒの島田氏



ラッピングマシンについて説明するホマッグの大橋氏

今回のキーワードは「生産性のないセットアップ時間を、いかに最小に抑えられるかがカギ」についてポイント説明

■少量生産を行なう上で大切なこと

ヴァイニツヒ社製モルダー、パワーマットならばジャストインタイム生産を実現できる。

ヴァイニツヒ社が開発したパワーマットシリーズのモルダーの導入により少量多品種生産に移行できる。従来のモルダーであれば、1時間近くかかっていたセットアップ時間を、“パワーロック”システムで5分程度に短縮できるうえ、軸や押えのデータ記憶機能“メモリーシステム”によって刃物セットの調整時間が大幅に短縮できる。

さらに最新のコントロールシステム“パワーコム”を搭載すれば、簡単な操作で新しい製品形状を登録でき、加工内容や生産状況をトータルで管理することができるようになる。操作も画面の案内に従うだけで製品形状や刃物形状のデータを簡単に登録・呼び出しができるため、いつでも生産を再現できる。

刃物の加工位置は数値によって表示するので、オペレーターはその数値に合わせて調節すれば良いだけで、また、その調節を自動化することも可能(オプション)。

特に無駄を省くため試し削りは不要で最初の1本目から仕上がり肌が最高のものが得られる特徴がある。



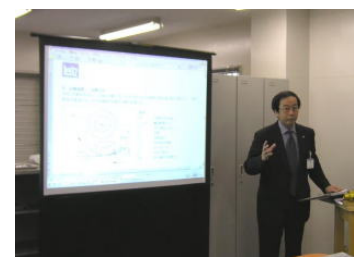
刃物説明 兼房(株)の土田氏



接着剤について 榊大誓の星野氏



刃物説明
ロイコ・ハベラ(株)の有谷氏



刃物説明 ライツ(株)の佐藤氏



ラッピング説明を前に挨拶する ホマッグ・ジャパン(株)の安井実社長とフリッツ社のVogt氏



ラッピング加工実演の様子

■フリッツ社製のラッピング機により少量多品種生産が実現

ラッピング加工には、生産を効率良く行なうために「何を」、「どれだけ」、加工するか、という判断が不可欠で、一つの形状から次の形状や製品を加工するためのセット替え時間は最大で約1時間程度にもなり、最悪の場合、結果として一日の作業時間のうち約半分程度をセット替えのために費やす可能性もあり、これは明らかに現在の小ロット生産化のトレンドに反することとなる。かといって納期やマーケットの嗜好を考えるといわずらにロット数を多くもできないため、複数、場合によっては多数のラッピング機を使用して、ことに対応しているのが現状である。

今、ラッピング加工の最新技術は、生産時間を有効に使うためのセット替え時間短縮に焦点とし、数々のメリットを上げている。

- 幅調整の高速化
- 高さ(厚み)調整の高速化
- クイック・プロファイル交換システム(フリッツ社特許)による素早いプロファイルの変更
- 送り速度に合せたグルー塗布量の自動最適化
- グルー充填時でもノンストップで作業が可能
- ダブル送り出し装置によるシート交換の高速化

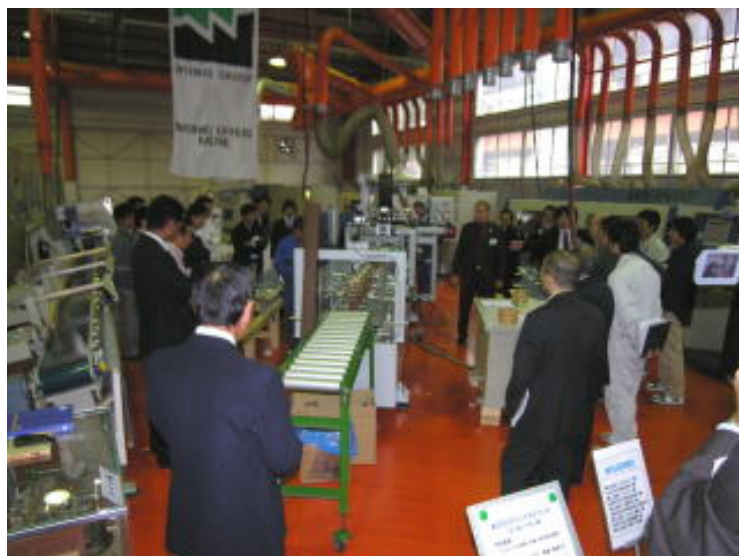
これらの技術により、セット替え時間はおおよそ50～70%程度にまで短縮化することが可能となり、高速且つ高精度なセット替えは、より機械の稼働率も大幅に上昇することから、機械そのものの稼働コストを抑える効果も生じ、機械本体の償却も早い段階で済ませることができる。

機械はモジュラーシステムとして設計されており、異なる要望に合せた最適な提案が可能である。このことにより、より少ない機械台数、より少ない製造スタッフでの、マーケットの需要に合せたきめ細かいラッピング加工が行なえる。

今回は日本初登場となる最新式のPURグルー・プリメルターが搭載されているマシンは、今後のラッピング加工に必要不可欠となるPURグルーをこれまで以上に簡単に扱うことができるため、ラッピング機本体と合せることにより、より効率の高い生産が得られる。

セットアップ時間を短縮することで、あなたの競争力と収益性は飛躍的に向上する。

- 人件費の削減
- 複数の生産設備を集約
- 省スペース化
- 集塵設備のコスト削減
- 素材のムダを省略(試し削り不要)
- ジャストインタイムの生産実現
- 完成品・半製品の在庫削減



実演加工を熱心に見入る来場者



講演前に挨拶するラッツヴィル社長と紹介を受ける高橋氏

■特別講演

「ラッピングの現在・未来、取り巻く環境」と題して(株)トッパン・コスモの高橋富男氏が特別講演を行なった。

ちなみに第1回のフェアへの来場者は約100名、そのうちユーザー30社、ディーラー20社の各担当者はモルダー加工からラッピング加工への一連のシステムと最新のテクノロジーをセットアップタイムを当てるクイズを交えて和やかに見学していた。

■次回のラッピング・ソリューション・フェア

◆ 開催期間

2006年 12月7日(木)、8日(金)、9日(土) 10:00~18:00

◆ 開催場所

ミカエル・ヴァイニツヒ・ジャパン(株) ショールーム 兵庫県 神戸市 灘区 摩耶埠頭

◆ 来場登録問い合わせ先

ミカエル・ヴァイニツヒ・ジャパン(株) 【TEL】 0120-871-875 (フリーダイヤル)【メール】 info@weinig.co.jp

詳細はホームページでどうぞ http://www.weinig.co.jp/topics/2006_wrapping/index.html